# 参考地図Ⅴ　近代道路図（明治20年前後）

## Introductory Map Ⅴ

The main roads in the Meizi period (around 1885)

日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

国道 national roads　　三都 three major cities

県道 prefectural roads

この地図は，明治中期（1886年・明治23年ごろ）の日本における道路網と，調査地点との関係を概観することを目的として作成した。この地図は，日本言語地図作成のための調査に従調査者として方言資料を提供した方たち（その生年は1889年・明治22年から1943年・明治36年までの15年間に集中している。詳細は，第1集別冊「方法」24ページ以下参照）の育った時代，ないしは，かれらの養育者たちの活躍した時代の陸上交通路の概要を示したものといえよう。

第3集付載の参考地図「人口図」が調査地点のものであるように，交通図についても調査地点のものを掲出することが考えられる。しかし，一般に人手困難な地図を示すことが望ましいと考えられるので，このような処置をとった。

参考として利用した原図は，陸地測量部が，1886年・明治19年から1890年・明治23年（北海道・琉球列島は1889年・明治22年から1893年・明治26年）にかけて刊行した，輯製20万分の1図（当時は帝国図・地勢図の名称はなかった）である。

そして，この地図には，原図に示された道路のうち，子持ちで示された国道，耳付けで示された県道を選んで表示した。原図には表示ずみで示された里道，星付けで示された村道もあるが，これらは，国道・県道と比較して，重要性が低いと考えて省略した。したがって，いうまでもないが，この図に示した以外の道路も，原図には多へ。ちなみに，国・第・第・村道の制は1876年・明治9年の太政官達によって定められた。なお，法律上として道路が制定され（現代の国道・県道につながる制度の確立）たのは1919年・大正8年のことであった。当時の日本において，鉄道建設にされ，道路行政は輻輳におかれていた，というのが実説である。

以下に，この地図をみる際注意すべき点を3つのべる。

(1) この地図に示した道路（国道・県道）が，本図で省略した道路（里道・村道）と比較した場合，交通量などのみから，相対的に優勢な道路であるといえる保証はない。また，ここに示した道路の中には，予定線が含まれ，現実には存在しなかったものがあるかもしれない。しかし，当時のもっとも重要な道路は，すべて記載されていると信じたい。

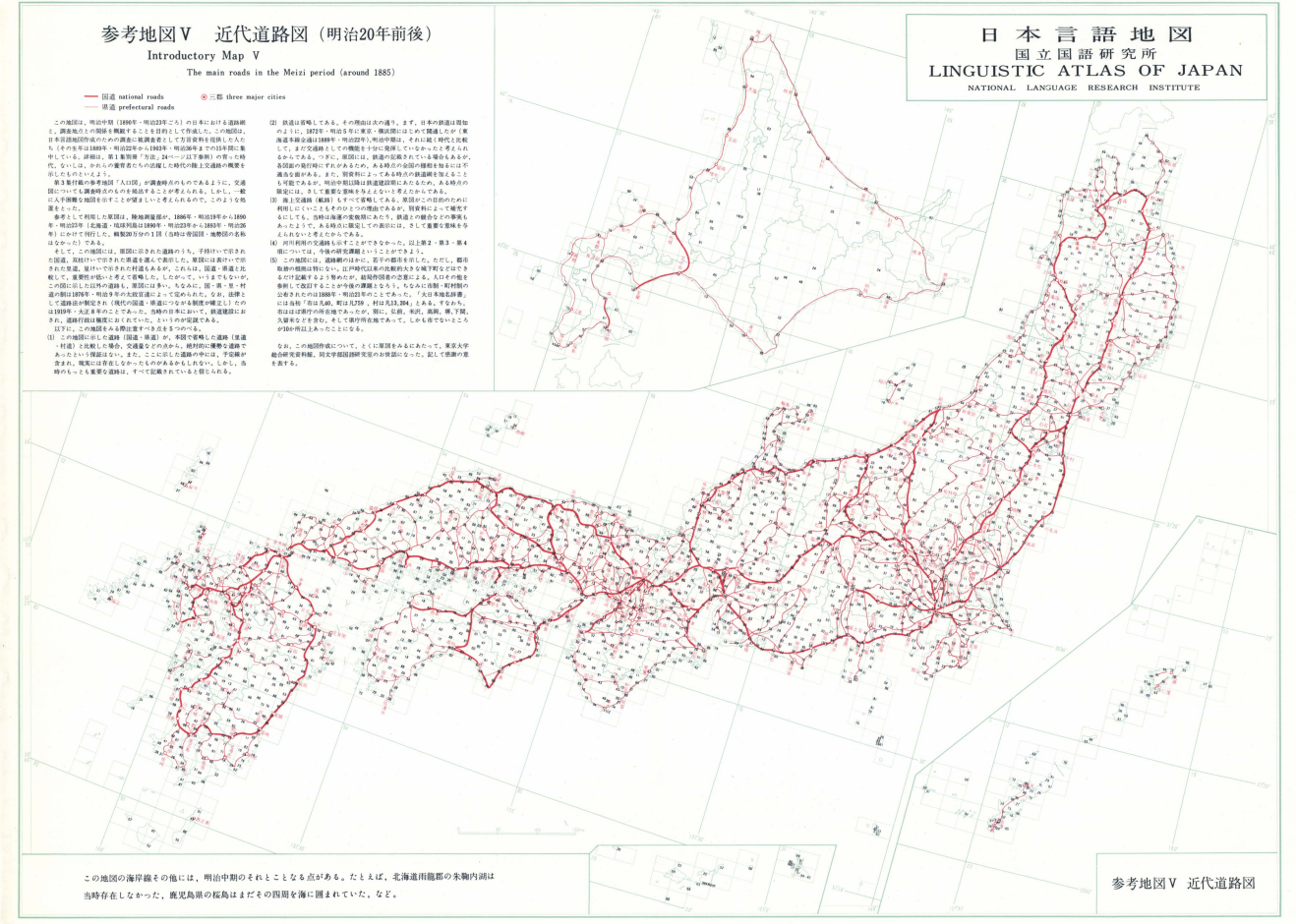
(2) 鉄道は省略してある。その理由は次の通り。まず，日本の鉄道は周知のように，1872年・明治5年に東京・横浜間にはじめて開通したが（東海道本線全通は1889年・明治22年），明治中期は，それに続く時代と比較して，まだ交通路としての機能を十分に発揮していなかったと考えられるからである。つぎに，原図には，鉄道の記載されている場合もあるが，各図面の発行時にずれがあるため，ある時点の全国の様相を知るには不適当な面がある。また，開業時によってある時点が鉄道網を知るとしても可能であるが，明治中期以降は鉄道建設期にあたるため，ある時点の限定には，さして重要な意味を与えないと考えたからである。

(3) 海上交通路（航路）もすべて省略した。原因がこの目的のために利用しにくいことも不のひとつの理由であるが，開発料によって補充するにしても，当時は海運の変換期にあたり，鉄道との競合などの事実もあったようで，ある時点に限定しての表示には，さして重要な意味を与えられないと考えたからである。

(4) 河川利用の交通路も示すことができなかった。以上第2・第3・第4項については，今後の研究課題ということができよう。

(5) この地図には，道路網のほかに，若干の都市名を示した。ただし，都市取捨の根拠は特にない。江戸時代以来の比較的大きな城下町などはできるだけ記載するよう努めたが，結局作図者の恣意による。人口その他を参照して改正することが今後の課題となろう。ちなみに当時・町村制が公布されたのは1888年・明治21年のことであった。「大日本地名辞書」には当時「市は丸砦，町は凡75ヶ，村は凡13,204」とある。すなわち，市はほぼ県庁所在地であったが，賀に，弘前，秋武，高岡，勝，下関，久留米などを含む。そして県庁所在地であって，しかも市でないところが10ヶ所以上あったことになる。

なお，この地図作成について，とくに原図をみるにあたって，東京大学総合研究資料館，同文学部図書館研究室のお世話になった。記して感謝の意を表する。



この地図の海岸線その他には，明治中期のそれとことなる点がある。たとえば，北海道用籠郡の朱鞠内湖は当時存在しなかった，鹿児島県の桜島はまだその四周を海に囲まれていた，など。

参考地図Ⅴ　近代道路図